2022年度

【学校推薦型選抜〈併願型〉（２日目）】
【学校推薦型選抜〈専願型〉】
【学校推薦型選抜〈指定校型〉薬学】

基 礎 素 養 検 査

2　　限　　目

注　　意

1．試験開始の合図があるまで，この問題冊子の中を見てはいけません。

2．問題冊子は１部，解答用紙は２枚です。なお，解答用紙は，「国語」用の『解答用紙①』と「理科」用の『解答用紙②』の２種類があります。解答用紙は，試験終了後に２枚とも提出いただきますので，２枚ともに受験番号欄に記入およびマークしてください。

3．出題科目，ページおよび選択方法は，下表のとおりです。

出題科目		ページ	選択方法
理科※	物理基礎	1 ～ 3	解答科目は，選択できる科目を受験票で確認のうえ，選択しなさい。
	化学基礎	5 ～ 7	
	生物基礎	9 ～ 12	
国　　語		国語１～国語12（うしろから始まります）	

※理科については，「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」から２科目選択し，解答してください。解答する科目の順番は問いません。解答時間（60分）の配分は自由です。

4．解答は全てマークセンス方式です。マークは黒鉛筆（シャープペンシル可）で右の例のように正しくマークしてください。

マーク例 ●

5．解答用紙には解答欄のほかに次の記入欄があります。

（１）受験番号欄

『解答用紙①』および『解答用紙②』の２枚ともに，受験番号を受験番号欄の上欄に算用数字で記入し，さらにその下のマーク欄にマークしてください。

（２）解答科目選択欄

①「国語」を解答される方

『解答用紙①』の解答科目選択欄について，「解答をする」のマーク欄にマークするとともに，解答する科目を〇で囲み，さらにその下のマーク欄にマークしてください。

②「理科」を解答される方

『解答用紙②』の解答科目選択欄について，「解答をする」のマーク欄にマークするとともに，解答する科目（２科目）を〇で囲み，さらにその下のマーク欄にマークしてください。

※受験番号および解答した科目が正しくマークされていない場合は，採点できないことがあります。

6．記入したマークを訂正する場合は，プラスチック製消しゴムで完全に消し，改めてマークしてください（消しくずを残さないこと）。

7．解答用紙は折り曲げたり，汚したりしてはいけません。

8．解答用紙の※印欄はマークしてはいけません。

9．問題冊子と解答用紙にページの落丁･乱丁および印刷の不鮮明な箇所や汚れなどがある場合は，手を挙げて監督者に知らせてください。

10．試験終了後，問題冊子は持ち帰ってください。

国語

（解答番号 (1) ～ (49) ）

Ⅰ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（六〇点）

誰しも「人に言えない場所」というものがいくつかあるものだろう。お気に入りであったり、他の人に知られるのがはばかられたり[1]するところがあるというのは、人生のシンプク[A]の豊かさを示しているように思えてならない。秘密というのは、その人の深さをあらわしているともいえるのだ。ということで私は、誰かと知り合ったときに、陰に陽に[2]「そう簡単には教えられないお気に入りの場所」を聞き出す努力をすることにしていて、それが交換できた相手を、「友達になった」と思うようにしている。

そしていつも思うのは、どうしてたいていの人の「秘密のお気に入りの場所」は、静謐（せいひつ）で心安らかで、［　A　］多くは電波もネットも入らないのだろう、ということだ。流行（はや）りの「デジタル・デトックス」をやっているという人には、よく理解していただけるだろう。やはり情報そのものには、ハイ[B]シュツされなければならない［　Ⅰ　］という側面があるのかもしれない。

などということを考えながら、今もお気に入りの山の中を歩いている。東京都最高峰の雲取山からのさびれた巻道も、私の「人に言いたくないお気に入りの場所」のひとつだ。都下では残念ながら電波が届かない場所の方が少ないので、スマホは電源が切ってあるにすぎないけれど、それなりに「デジタル・デトックス」を地でいく[3]行程は、少なくとも下山するまでは、一片の情報の［　Ⅱ　］も許さない、自分だけの固有結界を与えてくれる。

安心しきった［　Ⅲ　］、突然、けたたましいバイブレーションが鳴った。驚いて見渡しても誰もいない。鳴っているのは自分のザックだった。二〇一一年の震災のさい、非常連絡用にＮＴＴドコモの携帯電話を追加で使用していた。緊急時のつながりやすさも考慮し、いつも使っているスマホと二台持ちをしていた。前の週の被災地支援で持参した後でザックに入れっぱなしにしたまま、すっかり失念して[4]しまっていたのである。

慌てて出た電話の内容は、「あなたのクレジットカードについて、通常の利用パターンとは異なる利用が検知され、不正利用が疑われると診断がついたので、急ぎ確認したい」との、カード会社からの問い合わせだった。「現在、どちらにいますか？」「奥多摩を下山中です。」「え？　日本の山の中？」「不正利用はどちらでされたんですか？」「オーストラリアでのネットショッピングです。」

奥多摩の山中でさえ、私たちはグローバルなネットワークと［Ⅳ］につながっている。この現代社会では、私たちは常に情報に包囲されている。重要なのは、それが私たちの意思や能力にかかわらない、という点だ。先の例でいえば、見事にネットショッピングにおける不正利用を防いだつもりでいるが、これは私が「情報強者」だからだろうか。私はそもそも、デジタル・デトックスのつもりで山の中にいたのだ。

同じ赤いケータイは、私に、自分がもっとも「情報弱者」であった、あの瞬間を痛烈に思い出させる。あの時ほど「自らの弱さ」を危機的に感じたことはなかった。二〇一一年三月一六日の一一時〇三分、私は宮城県亘理郡山元町役場の駐車場にいた。〝宮城の湘南〟とも言われる海沿いの、のどかな街並みは一変し、すでに数日経っていても、町役場の駐車場はパニック状態のままだった。私たち三人は二時間ほど前に、ボランティアさんに出してもらったオフロード車を「活動車」として、水・食料・灯油・ガソリンなどを積めるだけ積んで、日本海側から一泊二日で到着したところだった。町役場はひどく被害を受けており、隣接した公民館には一〇〇〇人を超える被災された方が避難されていて、災害対策本部はいまだに屋外の駐車場に設置された運動会のようなカセツテントだった。山元町の友人と車を降りた私は、持参した物資の申告をした後で、災害対策本部のテントでの状況説明に立ち会っていた。電気も水道もいまだ復旧していない。何もかもが信じられないほど［Ⅴ］がない、非日常的な朝の感覚を、今でも時々、思い出すことがある。

初めて会う人どうしが激論を交わし会うような、初めて経験する会議が終わって、ふと見渡すと、自分が乗ってきた「活動車」が駐車したはずのところになかった。ケータイのキャリアは臨時の中継車を配備しているはずで、役場近郊はつながるという情報を仕入れていたので、念のため当時日本でサービスしていた四キャリアをすべて揃えてきたのだが、当時は、私の手元にある赤いドコモ以外はなかなか繋がらなかった。私たちの行動をトレースし最新情報を提供してくれている東京の仲間に電話をしようとして、先ほどまで確かに電波を拾っていたはずの赤いケータイ――私にとって東京との唯一の連絡手段――が、圏外になっていることに気がついた。

それまで東京を出てから、ほぼ二時間おきに東京の仲間が調べてくれる震災の情報を知り、まわりの方々に提供してもいた。［B］、被災地の状況は被災地の方がわからないという現実があったからだ。電気も電波もないここでは、情報網は警察・消防・行政がもつものを除くと、限られたラジオ（まだ災害臨時コミュニティFMははじまっていなかった）とうわさ話しかなかった。つまり、絶対的に情報が断絶した［Ⅵ］のような状態でもあったのだ（柴田2012b）。

そんな中で、「車」も「連絡手段」も失った私は、被災地では何の役にも立てない「弱者」だった。それこそこのまま両方を失ったら、私もここで、避難所に避難しなければ生きていけなくなる。自分を社会と接続するメディアが失われることの孤独さの深淵は、それを少し覗き見ただけで、［Ⅶ］が凍る音が聞こえるほどだった。恐ろしすぎて仰ぎみた空からはまた、凍えるような雪が降っていた。

私たちは「情報強者」は情報リテラシーなどの能力が高い人で、「情報弱者」はその能力が低い人だと思いがちだ。［C］よく考えてみる

と、「強者／弱者」を、情報をうまく活用できているか、できていないかという観点でのみ考えてしまうと、[6]もっとも重要な前提を見失ってしまっていることに気がつく。利用者や使用メディアがまったく同じであっても、自らではコントロールしがたい環境や状況によってその「強／弱」は転倒しうる。

［　D　］、情報を活用できるかどうかは、第一に、テクノロジーや環境のありように大きく規定されているのだ。私たちは大半の情報を、スマホやパソコンといった情報端末や各種のメディアによって収集し処理している。自分が「情報強者」か「情報弱者」かは、その人の情報処理能力のみによって決まるのではない。その点が、他の能力と大きく異なる。学力や運動能力といった能力と比べて、情報にかんする強者／弱者は、個人の努力や資質にかんするよりも、情報ディバイスなどのテクノロジーや、そのメディアがどのように活用されうるかという社会的条件の方が大きいのだ。

私たちが〈情弱〉という表現に[7]うろたえる理由はおそらく二つある。現代を生きる多くの人が情報強迫性障害とでも呼ぶべき、過度の「情報」至上主義にあるというのがひとつめの理由である。もう一つは、「弱者」という論点にある。つまりそれが、誰でも得られる情報を入手できないという、個人の能力や資質に対する明確な否定になっていると、私たちが考えているからだ。もちろん、ある情報を正確に把握したり、情報の背後に隠された意図を見抜けないといった判断力などを[8]揶揄（やゆ）したりしている面は少なくないだろう。しかしそういった力そのものが養われたり発揮されたりするためにも、ディバイスやメディアを使ったり学んだりできる環境や条件が揃っていることが大前提になることは疑いもない。本質的には、情報にかんする「強者／弱者」については、個人の生まれながらの資質や、何らかの努力の結果だけではなく、社会環境の方がむしろ重要なほどだと、いうこともできるのだ。

情報にかんする社会環境の差という概念であれば、もっと適切な表現がある。それは「情報格差」＝「デジタル・ディバイド」である。〈情弱〉論といわれても［　Ⅷ　］という人でも、本書が結局、デジタル・ディバイドの議論であるといえば、わかってもらえるかもしれない。情報弱者／強者にかんする議論は、情報にかんする社会的な格差の問題として、まず考えられるべきなのだ。

モスバーガーらはデジタル・ディバイドを、基礎的な面と経済や政治などの応用的面のいくつかに再整理して定義しているが、特筆すべきは、基礎的な定義として二層に注目している点である（Mossberger et. al. 2003: 8-9）。そのなかで筆頭としてあげられているのが情報にアクセス可能かどうか（The access divide）である。次に情報を活用するスキルがあるかどうか（The skills divide）が挙げられているが、それも二つのポイントに分けて整理されている。The skills divideのポイントの一つは、いわゆる情報にかんするリテラシーだが、そしてふたつめとして、そのための社会的な支援が必要だと整理されている。［　E　］、デジタル・ディバイド論は、情報にかんする能力が、個人に属するばかりではなく、社会的に決まってくるということを説明している。

デジタル・ディバイド論として整理してみると、〈情弱〉という単語にいだいた嫌悪感に[9]わだかまることなく、[10]見透（とお）さなければならない論点があること

に気がつくだろう。考えてみれば、実際に「情弱」の例として挙げられることが多い高齢者であっても、もし本当に情報弱者であるとしたらその原因は、本人に帰するのではなく、明確に環境にキセキ[D]されるはずであろう。

だから〈情弱〉論は、本当は社会環境の問題のはずなのに、それがすべて個人の属性として扱われているという意味での、「社会的弱者」の問題なのだ。これこそが私たちが〈情弱〉というタームにいだく嫌悪感の［　Ⅸ　］である。そして私たちは、社会学は、まったく同じ構造を知っている。

デジタル・ディバイド論で注目される「情報弱者」の典型例には、高齢者の他に、階層差（学歴、収入差）、そして、障害の有無などがある。障害者が情報弱者だというと、心身に障害があることで、スマホのフリック入力やパソコンのキーボード入力が使えなかったり、パソコンの画面が見えなかったりして、情報ディバイスを使うことができないということを想像するかもしれない。しかし、このような障害があるから情報アクセスが不可能と考えるのは、誤解に等しい。

障害のある大部分の人にとっては、スマホやパソコンのようなデジタル端末がある方が、実はずっと情報格差を乗り越える可能性が広がっていることを、すでに見聞きしている人も少なくないだろう。そもそもデジタルの情報ディバイスは、従来型のアナログ・メディアと比べて、情報の入出力の自由度が高い。新聞やテレビといった従来型のメディアと、インターネットを比べてみるとわかりやすい。視覚に障害がある人の多くは新聞を見ることができないし、肢体が不自由な人の中には、雑誌のページを持ち上げてめくれない人がいる。ところが、新聞がデジタルデータになっていれば音声で読み上げることで視覚に障害があっても記事を読めるようになるし、肢体不自由の人もパソコンを動かす特別なマウスやキーボードなどを使えば、インターネットに接続してオンラインの雑誌記事を読むことができる（柴田・金澤2004など）。あらゆる情報がデジタルになりネット上で検索可能になる情報化社会は、実は障害者にとって都合がいいともいうことができるのだ。

とはいえ、ここでヨウテイ[E]を看過してはならない。障害者が情報社会においてデジタル・メディアを使いこなすことができるかどうかは、そのようなアクセス環境がどれほど整っているかに左右される。音声でウェブサイトを読み上げるためには音声ブラウザやソフトを使うことになるが、新聞社のウェブサイトがＷ３Ｃの勧告する世界標準に対応していなければ、意味不明の読み上げになってしまう。ろうや難聴であっても動画サイトを楽しむことはできるが、最低でも自動字幕機能は必要だし、できれば動画製作者が音声情報をテキストにしたものを字幕情報として同時にアップしてくれていた方がいい。つまり、そこで求められるのは個人の能力や属性ではなく、テクノロジーや社会的環境が障害のある人に対応できているかどうかという、「情報アクセシビリティ」という観点である（柴田ほか2016）。

視覚に障害がある人は、目が見えないから「情報弱者」になるのではない。耳が聞こえないから「情報弱者」になるのではない。音声ブラウザで読み上げることができないようなWebサイトばかりだから、動画に手話通訳や字幕をつけていないから、「情報弱者」になるのだ。つまり、目が見える、耳が聞

こえる、手足が動くといった個人の能力ではなく、まさに社会環境の方が、「情報弱者」を生んでいるのである。

そもそもこのような情報アクセシビリティの考え方は、障害について考える障害学や、社会学との相性が良い。それらの学は、障害のあるひとが「できない」理由を、その人の身体条件――目が見えない・耳が聞こえない・体が動かないなど――には求めない。車イスの人が二階に上がれないのは、その人が車椅子だからではなく、そこにエレベーターやスロープが付いていないからである。耳が聞こえなかったり聞こえにくかったりする人が、普通学校で勉強できない理由は、手話通訳やノートテイクといった情報保障が欠けているからである。もし、ability＝能力とdisability＝障害の関係において、「何かができないこと」を論じるなら、それは個人の身体条件によって決まるのではなく、必要な技術が提供されていなかったり、環境側の配慮が不足していたりといった、社会的な問題として構成されるのである。

このような「障害の社会的構成」は、障害者がなぜ「社会的弱者」なのかを理論的に明確に説明した。実はこのような論点は、難病者はもちろん、高齢者、女性、エスニシティなど社会的マイノリティが、なにかしらの不利に直面する場合に、同様に問題になることが多い。「情報弱者」の議論は、社会的なマイノリティ論のひとつ、しかも典型的な代表例ということができる。

（柴田邦臣『〈情弱〉の社会学』より。ただし出題の都合上、表現を一部改めた箇所がある）

問一　二重傍線部A～Eのカタカナを漢字で書いたときに、その漢字と同じ漢字をふくむものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

A　(1)

① フシンニン案を出す
② エンジンのシンドウ
③ 組織をサッシンする
④ タイシン工事
⑤ 株価のゾクシン

B　(2)

① メンジュウフクハイ
② 核兵器のハイゼツ
③ イッパイ地に塗(まみ)れる
④ ハイセキ運動
⑤ ジャクハイ

C　(3)

① ショセツ入り乱れる
② コウセツ秘書
③ 文をブンセツに分ける
④ オウセツマ
⑤ 期限がセッパクする

D　(4)

① セキベツの言葉
② 輝かしいセンセキ
③ 課題がサンセキしている
④ インセキ辞任
⑤ セキジツの面影

E　(5)

① テイオウガク
② 専門家からのテイゲン
③ テイカンの境地
④ 東アジアにツウテイする文化
⑤ ショテイの手続き

問二　傍線部1「はばかられたりする」、傍線部2「陰に陽に」、傍線部3「地でいく」、傍線部4「失念して」、傍線部7「うろたえる」、傍線部8「揶揄したり」、傍線部9「わだかまる」の本文中の意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

傍線部1　①気まずかったりする　②気が重くなったりする　③恥ずかしかったりする　④差し障りがあったりする　⑤もったいなかったりする　(6)

傍線部2　①人づてに、あるいは直接　②遠回しに、あるいは直截に　③密かに、あるいは公然と　④消極的に、あるいは積極的に　⑤すぐに、あるいは数日後に　(7)

傍線部3　①試しに行う　②地道に進める　③完全に実行する　④自分自身で進める　⑤実地で行う　(8)

傍線部4　①信用して　②油断して　③安心して　④忘れて　⑤勘違いして　(9)

傍線部7　①何もせずに放っておく　②とまどって何もしようとしない　③対処のしようがなく逃げ出す　④どうしてよいかわからず慌てふためく　⑤必要以上に大きな反応をする　(10)

傍線部8　①迷惑がったり　②非難したり　③あげつらったり　④からかったり　⑤うらやんだり　(11)

傍線部9　①立ち止まってしまう　②不満を抱き続ける　③引け目を感じ続ける　④罪悪感を覚える　⑤集中し続ける　(12)

問三　空欄 A ～ E に入れるのに最も適当なことばを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

空欄A　①したがって　②それなのに　③すなわち　④しかも　⑤その一方で　(13)

空欄B　①それでも　②それゆえ　③というのも　④としても　⑤となると　(14)

空欄C　①むしろ　②だから　③つまり　④しかし　⑤このように　(15)

空欄D　①逆に　②つまり　③たとえば　④というのも　⑤とはいえ　(16)

空欄E　①もちろん　②したがって　③ところが　④このように　⑤ただし　(17)

問四　空欄 Ⅰ ～ Ⅸ に入れるのに最も適当なことばを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

空欄Ⅰ　①資源　②ゴミ　③瓦礫（がれき）　④熱　⑤毒　(18)

空欄Ⅱ　①移入　②介入　③吸入　④加入　⑤参入　(19)

空欄Ⅲ　①節目に　②暁に　③刹那　④果てに　⑤挙句　(20)

空欄Ⅳ　①ランダム　②ストレート　③コンタクト　④ダイレクト　⑤アナログ　(21)

空欄Ⅴ　①現実味　②外連味（けれん）　③真実味　④醍醐味（だいご）　⑤人間味　(22)

空欄Ⅵ　①融通無碍（むげ）　②四面楚歌（そか）　③孤立無援　④雲散霧消　⑤五里霧中　(23)

空欄Ⅶ　①首元　②背筋　③手足　④肝　⑤頭　(24)

空欄Ⅷ　①ピンとこない　②気にくわない　③甲乙つけがたい　④身に覚えがない　⑤ばつが悪い　(25)

空欄Ⅸ　①源泉　②資源　③光源　④熱源　⑤水源　(26)

問五　傍線部5「自分がもっとも『情報弱者』であった、あの瞬間」とあるが、筆者の体験としてどのようなことが述べられているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。　(27)

① 筆者は、車を失い、さらにケータイが不通で連絡もできなくなったため、一人で歩いて避難所に行くことを余儀なくされ、孤独さに恐怖を感じた。

② 筆者は、車もケータイも失ったことで、被災地で何の役にも立てない存在となり、社会とつながるメディアを失った孤独さに恐怖を感じた。

③ 筆者は、車もケータイも使えなくなったことで、東京の友人と連絡もとれず、安全な東京に戻ることもできなくなった孤独さに恐怖を感じた。

④ 筆者は、車もケータイも失ってしまったため、避難所に避難することもできず、被災地に一人取り残されてしまい、孤独さに恐怖を感じた。

⑤ 筆者は、知り合いのいない被災地で、ケータイが不通になったことで、東京にいる仲間と電話することすらできなくなり、孤独さに恐怖を感じた。

問六　傍線部6「もっとも重要な前提」とあるが、その「前提」の内容の説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。(28)

① 強者／弱者を決めるのは、利用者が使う情報端末の種類と、その利用者の情報処理能力だけではないこと。
② 同じ利用者が、同じメディアを使った場合でも、ある環境や状況での操作の仕方次第で、強者／弱者は容易に逆転すること。
③ 情報を入手するためのディバイスやメディアを使用したり、学んだりできる社会的な環境や条件がそろっていること。
④ 利用者が、情報端末の使い方を知り、情報処理能力を持つのはもちろん、それらを生かせる環境や条件を知っていること。
⑤ 利用者自身が、情報を入手できない理由や、必要とされる個人の資質や努力の内容といった条件を把握していること。

問七　傍線部10「見透さなければならない論点がある」とあるが、筆者は「情報弱者」に関する議論の論点について、どのようなことを述べているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。(29)

① スマホやパソコンなどの情報端末によって、「弱者」も情報格差を乗り越える可能性があることが、十分知られていないことこそが問題である。
② 障害や、情報処理能力の不足など、「弱者」個人の能力や資質が、情報にアクセスできない唯一の原因だと思い込んでいることこそが問題である。
③ 障害者を巡る議論と同じく、「弱者」を生んでいるのは社会環境であるのに、その原因を個人の属性に求めようとすることこそが問題である。
④ デジタル端末が普及しつつある状況は、高齢者や障害者といった「弱者」にとっても好都合であることが知られていないことこそが問題である。
⑤ 「弱者」を生み出しているのは、社会環境なのだから、社会環境を整えるべきだという当然の主張に誰も耳を貸さないことこそが問題である。

Ⅱ 次の問いに答えなさい。（四〇点）

問一 A～Cの傍線部と同じ漢字を使うものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

A ひるがえる
① カンプ金　② 若手のゾウハン　③ フクメンをかぶる　④ リレキショ　⑤ ホンイする　(30)

B ほころびる
① 経営のハタン　② エイゼン係　③ 傷口のホウゴウ　④ キセイカンワ　⑤ 司法カイボウ　(31)

C なぐさめる
① 政財界のユチャク　② コンガンする　③ 鉄棒でケンスイする　④ イレイ碑　⑤ ウップンを晴らす　(32)

問二 A～Cの熟語の読みとして適当なものを、次の各群の①～④の中からそれぞれ一つ選びなさい。

A 漸次　① センジ　② ザンジ　③ ゼンシ　④ ゼンジ　(33)

B 進捗　① シンショウ　② シンチョク　③ シンプ　④ シンサ　(34)

C 遊説　① ユウサイ　② ユウゼイ　③ ユウエツ　④ ユウセイ　(35)

問三 A～Cの熟語と意味的な組み立てが同じ熟語を、次の①～⑦の中からそれぞれ一つ選びなさい。

A 喫茶……(36)　B 逸品……(37)　C 赦免……(38)

① 親戚　② 結審　③ 年長　④ 特急　⑤ 不穏　⑥ 去来　⑦ 貴賓

問四　A～Cの語の対義語として最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

A　移動　①安定　②硬直　③不動　④定着　⑤固定　(39)

B　豊富　①不足　②些末（さまつ）　③窮状　④欠乏　⑤半端　(40)

C　接近　①離反　②反発　③隔離　④離合　⑤遠隔　(41)

問五　A～Cのことわざの意味の説明として最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

A　後の祭り

①準備がまったくできていないのに、始まってしまったこと。
②事態が終わってから、問題に気づくこと。
③気がかりなことをすべて済ませて楽しむこと。
④手遅れで、取り返しがつかないこと。
⑤どれだけ騒いでも、意味がないこと。　(42)

B　枯れ木も山の賑（にぎ）わい

①実際に何が役立つかは、そのものの価値とは関係がないということ。
②役に立たないものも、全体を構成する部分であるということ。
③劣った者でも、人数が多ければ、何かの役に立つということ。
④現在の状態がどうであれ、過去には役に立っていたということ。
⑤つまらないものでも、あったほうがましだということ。　(43)

C　二階から目薬をさす

①困難なことにあえて挑戦すること。
②成功させるのがとても困難な状況であること。
③焦って無意味なことをしてしまうこと。
④思うようにならず、もどかしいこと。
⑤わずかな可能性にかけて、やってみること。　(44)

問六　例文A～Cの傍線部と意味用法が最も近いものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

例文A　逃げをうつ。

①芝居をうつ。　②悪をうつ。　③点滴をうつ。　④自分でそばをうつ。　⑤祝電をうつ。　(45)

例文B　大学生を候補に立てる。

①日に焼ける。　②忘れ物を取りに帰る。　③勝負に負ける。　④一日に三回食事をとる。　⑤切り株を椅子にする。　(46)

例文C　よく考えたうえでの決断だ。

①社員の頑張りのうえに会社は成り立っている。　②議論したうえで案を受け入れた。　③かくなるうえは覚悟を決めるしかない。　④数のうえでは圧倒的に有利だ。　⑤時間がないうえに人手も足りない。　(47)

問七　A、Bの文の□に入る敬語として最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

A　父が先生にお目にかかりたいと□。

①申しております　②申されております　③申されています　④おっしゃっています　⑤おっしゃられております　(48)

B　ただいま係の者が参りますので、少々□。

①お待ちください　②お待ちしてください　③お待ちになられてください　④お待ちできますか　⑤お待ちいたしてください　(49)

ご注意

1. 本書の一部あるいは全部について，発行者の許可を得ずに，無断で複写・転写することは禁じられています。

2. 本書の内容に誤り・誤字脱字などございましたら，ご連絡いただけると幸いです。

2022/7/1

発行・制作:広島国際大学入試センター

連絡先:739-2695 広島県東広島市黒瀬学園台555-36

TEL: 0823-70-4500　FAX: 0823-70-4518

Mail: HIU.Nyushi@josho.ac.jp

URL: https://www.hirokoku-u.ac.jp/

Copyright © 2022 Hiroshima International University, All rights reserved.